

領域 5 IFM

2026.9/14 18:00 – 19:00

場所：東京大学駒場キャンパス 1 号館 A101 会場

出席者：領域代表、副代表、運営委員を含む 20 数名

配布資料：議題案スライドが参加者に配布された

■ 1. 審議・確認事項

1-1. 運営委員の紹介

- ・ 今期代表・副代表・運営委員の紹介が行われた。
- ・ 次期代表・副代表・運営委員の紹介が行われた。
- ・ 次々期（**2027. 4**～）の運営委員について下記の 3 名の紹介があり、物理学会に推薦することが承認された。
 - 藤本知宏（NTT 物性研）
 - 中村拓人（阪大）
 - 中川耕太郎（東大）

1-2. 領域活性化について（講演者推移）

- ・ 発表件数について
 - オンラインやポスターは減少、オンサイトは回復するが、長期的には減少傾向。領域 5 のみに限らない。
 - 直近 2 年よりはやや回復したが全体としては依然減少傾向
 - 学生発表賞の講演は前回（オンライン）よりは 33 件増大
- ・ キーワードについて
 - 生物・生命現象と分子拡散は 3 回連続で講演者数 0 だったので、今回は削除された。
 - （追記）領域 5 では、講演者数が 4 期連続で 0 となったキーワードを削除する方針としているため、今後はこの基準に基づいて削除を判断する。
 - それ以外は削除・新規追加のキーワードは無し。
- ・ 第一キーワード
 - 「第一キーワード以外」のうち 4 7. 超イオン導電体・イオン導電体が 4 人。
追加は見送りの方針
- ・ 第二キーワード
 - 「生物・生命現象」および「分子拡散」は削除された
- ・ 第三キーワード

- 講演者ゼロのキーワードはなかった

1-3. 審議事項

Q. 春のオンラインをやめる案についての動きは？

- ・今のところ上から話は来ていない。いずれ議論されることが予想される

Q. ポスターが激減してほとんどゼロに近づいてきている。大丈夫か？

- ・次回は応物と完全にかぶっている。ポスターが激減する可能性が高い。このままでよいのか問題視する声もあがった。
- ・ポスターをやるかやらないかは領域ごとに決定できる。次回（2027年3月）のポスターの様子を見て、その次に議論する、というのは可能かもしれない。
- ・もし次回春の学会で中止の決断をした場合、周知の期限は来年秋の学会の募集時あるいはその前となる。
- ・しかし、領域再編は最短で2028年9月から、という理事会の意向も来ている。その進展次第では、ポスター賞システムを今すぐ無理に変えたところで、すぐに全体の体制が大きく変わってしまう可能性があるので、保留でよいのでは、という意見もあげられた

Q. 第一キーワード「THz」を追加するかどうか？

- ・明示的に書けば、技術開発など、応物系の人が入ってきやすくなる可能性がある
- ・「6. 放射光、真空紫外、X線吸収分光（MCDを含む）」のように、カッコつきで（THzを含む）として「2. 時間分解測定」に含めることは可能？
- ・現状「2・3・4」にばらけているのが、「THz」の横串でまとまることになるのであれば悪くはないかも？
- ・プログラム編成上の都合を優先すべきでは。煩雑化することは無さそう。
- ・領域再編でまたキーワードが大きくリシャッフルされる可能性はある。ここでキーワードを追加することが、再編後に影響する可能性はある。入れておいて様子を見る、で良いのでは。
- ・入れても良いのでは、という意見多数。反対意見が無いので追加することに。
- ・今入れておけば、来年春の募集および、領域再編時のキーワードに含めることが可能

■2. 領域再編に関する議論

・領域「番号」はもともと5年ごとに見直すはずだったが、25年間一度も見直されていない。

・若手奨励賞の人数、運営委員の人数、などに不公平が生じているため、再編したいとの案が理事会から来た。

・最短では2028年9月の年次大会から新方式を始めたいとのこと。

・理事会から提案された「プログラム・ユニット制」の基本方針：

- 新コンセプト「プログラム・ユニット」(PU)を導入。
- 人数が均等化されるようにPUを組む。各PUは、キーワードごとに束ねる。
キーワードはなるべく重複を避ける

・理事会としては、PU制によって「領域」の数を減らしたいとの意向。

実質的には、人数の少ない分野が、別の領域に吸収されるのでは、という予想。

人数の多い領域（領域5, 領域8）が分裂することは無いだろうと思われる。

・領域10、領域1の原子分子、などは運営が大変そうであるとの情報。

・今後のプロセスで、トップダウンで領域再編が行われることはおそらくなく、ワーキンググループが組織されると思われる。

・理事会から各領域の代表に、PU制にむけたキーワードリスト案のExcelファイルが配布された。今回の会期中に、必要なキーワードの追加が要請されている。

・IFM参加者でExcelファイルを閲覧しながら、話し合いが行われた。

・キーワード表は、たたき台を作った人の分野の意識が強く反映されている。例えば、「磁性」「スピン系」「スピントロニクス」が区別されているのに、「光物性」は一つしかない。「量子エレクトロニクス」と「量子光学」も分かれているが、領域5は量子光学の方にしかPUとして含まれていない、など。

・ファイルは一般公開されない（議論がまとまらなくなることが予想される）ので、各領域のIFMで決めてほしいとの意見が理事会からのお達しだった。

キーワード追加に関して、どうすべきか話し合われた。

・キーワードは「物質」中心に区切られている。光物性は分野的に手法でまとまっているため、物質ごとに区切ると領域が散り散りに分裂することになる。それは避けるべきだろうとの意見が出された。

・PUとして「光物性」はそのままにした方が良いでしょう、との意見が出され、異論は無

かった。

・領域5の「分裂」を避ける、という方針は IFM 内で合意が取れた。

・その方針で、既存の分野から投稿する人が混乱しないように、PU「光物性」に領域5のキーワードを多めに追加しておくべきではないか、との意見が出され、おおむね合意された。

→「時間分解分光、非線形分光、光電子分光、超高速現象、高強度レーザー」、などが追加された

・ただし、領域5関連キーワードの中で、「超イオン導電体」に関しては人数が少ないので、別途話をする事とされた。

・本格的に話が動き始めるのは来年 2027 年秋の IFM からとなっており、次々期の運営委員は困難を極めることが予想される。あらかじめ申し伝えておかないと問題かもしれない、との意見が出された。